

令和7年度 第6回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和8年1月19日（水）10時00分～11時30分

場 所：三次市役所 本庁舎 6階 605・606会議室

出席者：

〔会長〕 三次市 副市長 山崎 輝雄

〔委員〕

三次市地域共創部 呑谷 巧	三次市建設部 濱口 勉
備北交通株式会社 實兼 利光	三次みどりタクシー株式会社 石田 光雄
有限会社君田交通 松尾 宏	私鉄中国地方労働組合備北交通支部 長谷川 和宏
八次地区 新田 泉	川西地区 兒玉 千洋
布野町 二本木 讓	三次商工会議所 竹本 勇夫
三次広域商工会 中宗 久之	三次市社会福祉協議会 天野 かおり
中国運輸局広島運輸支局 蔦 真	広島県地域政策局公共交通政策課 柴田 益良(代理)
西日本旅客鉄道株式会社広島支社 荻原 将吾(代理)	広島経済大学経済学部 加藤 博和

2. 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
路線バスの運行状況及び収支状況について
- 4 協議事項
 - (1) 三次市地域公共交通計画（第2期）の素案について
 - (2) 令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について
- 5 その他
- 6 閉会

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

<事務局より、報告事項「路線バスの運行状況及び収支状況について」を説明>

(加藤委員)

十番交通の下津田線は、例年収支状況が下位にあるが、以前、この系統は日彰館高校に通われる高校生が利用するとお聞きした。しかし、平均乗車密度0.2、収支率2.2%、経常損失額920万円程度である。方針として「路線の見直しを検討する」とあるが、例えばデマンド型の乗合タクシーや、ライドシェアといったことに展開できる余地もあるのではないかと。

(事務局)

下津田線は、本市の吉舎から世羅町の下津田を繋ぐ系統である。高校生の利用状況について確認したところ、今年度も高校生の利用があると伺っているため、運行継続を予定している。

定時定路線以外の運行方法についての検討はできていないが、利用状況に合った運行形態について、交通事業者と協議をしながら一緒に考えていきたい。

4. 協議事項

<事務局より、協議事項(1)「三次市地域公共交通計画（第2期）の素案について」を説明>

(柴田委員代理)

28ページの施策9の利用促進策の推進に関して、広島県では、三次市、庄原市、備北交通、タクシー協会、JRが参加するエリア分科会を開催し、広域路線も含めた利用促進を検討している。付け加えて欲しい。

質問であるが、27ページ、施策8に「地域内生活交通検討会の開催」とある。これは地域が主体になって取り組まれている活動なのか、もしくは三次市が主導で進められている取組なのか。

(事務局)

28ページの施策9については追記する。

27ページの地域内生活交通検討会については、地元の住民自治組織等が主体となっている。市は支援する立場である。「設置する」という表現については改める。

(蔦委員)

34 ページの指標「[F]乗務員等募集支援の取組実施回数」について、前回、こういった取組を KPI に取り入れてみてはどうかと意見したところ、検討いただき、追加されたことについてお礼申し上げます。

確認だが、22 ページの「地域公共交通確保維持事業の必要性」で、フィーダー補助事業を受ける系統について挙げており、以前と①が変わっている。従来は、「市街地循環バスくるるん」を入れていたが、それに代わるものとして新たに「のるーと三次」を位置付けようとしているのか。

また、従来は NPO 法人元気むらさくぎ「さくぎニコニコ便」も補助対象として位置付けていたが、今後は外すことになるのか。

(事務局)

AI オンデマンド交通「のるーと三次」は、「くるるん」に代わる新たな交通手段であり、来年度新規で申請する際にこちらを位置付けたいと考えている。詳細については追ってご相談させていただく。

NPO 法人元気むらさくぎ「さくぎニコニコ便」は補助事業の対象から外すが、その理由は、別途協議が必要なことではあるが、運行事業者である元気むらさくぎから、今年度末をもって運行を終了する予定と伺っているためである。

(蔦委員)

「さくぎニコニコ便」について、運行をとりやめた場合の利用者の今後の対応はお考えなのか。

(事務局)

「さくぎニコニコ便」は、作木町内をデマンド運行しているが、同エリアを運行している市民バス作木町線も昨年 11 月にデマンド化を行った。これは地域からの要望で運行形態を変えたもので、さくぎニコニコ便に関連した変更ではないが、同じ運行エリアで対応可能ということで、代替交通として位置付けている。

(加藤委員)

6 ページの三次市の都市構造の説明について、「特に三次地域の中心市街地においてはショッピングセンターや市立三次中央病院など高度な都市サービス」とあるが、三次市中央病院は中心市街地エリアと言えないのでは。高度な都市サービスには間違いはないが、エリアの位置付けとして、むしろ中心市街地から離れているので中央病院とのアクセスが重要ということになると考える。

10 ページの路線バスの令和 6 年度収支率であるが、先程、令和 7 年度の状況が報告されたので、データを更新されるのか。

12 ページに地域内生活交通検討会の設置状況があり、川西地区は中国地方知事会中山間地域振興部会と記載されている。川西地区は、郷の駅を中心としたプロジェクトを行っているため知事会が交通についても検討されていると思われるが、そういった注釈を付ける方がよいと思われる。

19 ページに交通体系のイメージ図があるが、甲奴町内を運行する中国バスが撤退して市民バスで対応しているため、甲奴町に伸びている路線バスの矢印については、記載に工夫が必要である。

21 ページに「三城庄原線」の記載があるが、これまでの表記では三次と西城を結ぶということで「三

城線」であったと思う。どちらが正しい名称なのか。

27 ページの施策 7「塩町駅周辺整備の検討」とあるが、少し唐突な印象である。鉄道の利便改善や地域との連携ということは理解できるが、なぜ塩町駅なのか。スケジュールも 2030 年度まで継続実施となっているが、見通しが分からない。塩町駅と類似のロケーションの志和地駅等もある。もう少し説明を加えてもよいと考える。

31 ページの評価指標一覧で、次期計画の目標が掲げられている。L の鉄道利用促進イベントの参加者数といったところは 4 年間で 3,000 人以上と平準化できると思うが、H の相乗りタクシーの申請者数が令和 11 年度で 80 人以上、I の高齢者の自主返納の申請者数が令和 11 年度で 200 人以上となっていて、これは最終年度の 1 つ前の年度にこの数値を超えることが目標となっている。しかし、運転免許自主返納の申請者数の推移を見るとピークアウトして近年減少傾向にあるし、相乗りタクシーもなかなか増えない。また、年による増減もあることも踏まえて、評価年に目標値を超えるのではなく、[L]鉄道利用促進イベントの参加者数と同じように「4 年間で〇人以上」でまとめても良いのではないか。

(事務局)

6 ページの三次中央病院については、ご指摘の通り中心市街地ではないので、表現は検討する。

10 ページの収支率については、差し換えが可能であるので最新の資料に更新する。

12 ページの川西地区の検討会の表記については、地域を確認して、注釈を検討する。

19 ページの体系図における甲奴町の路線バスの表記について、中国バスの甲奴三次線は廃止となっているので修正する。

21 ページの路線名について、ここだけ「三城庄原線」となっているが、正式な路線名としては「三城線」であり、「三城線」で統一する。

27 ページの塩町駅周辺整備の検討については、今回初めて位置付けしたものである。塩町駅の踏切から国道 184 号に出る道路は路線バスも運行しているが大変狭隘である。また、地域からの要望もあるが、整備にあたっては財源が必要であり、計画に位置付けたいと考えている。ただし今回は、検討を行うための頭出しという段階で、今後検討が進み、ある程度形が見える時点になれば、より明確な内容へと計画を修正したい。もう少し分かりやすい表現ができるかどうか検討する。

31 ページの指標のとり方については、「4 年間で〇人以上」という示し方に改める。

(加藤委員)

27 ページの塩町駅について、現在バスが通る旧塩町商店街の道路を広くするというイメージなのか。

(濱口委員)

現状、買収など具体的な計画がある訳ではないが、今後学校の再編等もある中で、将来的な人口推計も考慮すると、塩町を経由して三良坂の中学校や青陵高校に通学する子どもがいるだろうという考えのもと、国道 184 号と学校を結ぶような道路を検討したいと考えている。検討するにも頭出しをしておかなければ国費の対象にもならない。まだ、どういった形になるかはわからないが、検討を進めるために計画に位置付けておきたい。

(加藤委員)

理解した。本計画の関連計画にも、三次市の小中学校のあり方の基本方針も入っている。

現在校区外から塩町中学校に通う生徒も多い。朝の通学時間帯に渋滞も発生しているという話も聞く。青陵高校や塩町中学校に続く踏切部分もボトルネックになっているかもしれない。現状を改善できるようなハード整備も検討されたら良い。よろしくお願ひしたい。

(山崎会長)

他にご意見等無いようであれば、今いただいたご意見の計画素案への加筆修正を事務局に一任するというご承認いただけるか。

(一同)

異議無し。

(山崎会長)

承認とする。

<事務局より、協議事項(2)「令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について」を説明>

(山崎会長)

ご意見等無いようであれば、軽微であれば修正を事務局に一任するというご承認いただけるか。

(一同)

異議無し。

(山崎会長)

承認とする。

5. その他

(加藤委員)

12月1日に運行を開始したAIオンデマンド交通「のるーと三次」について状況を教えて欲しい。併せて11月に三次・十日市・八次の各地区で開催された利用説明会の時に出た意見等があればお聞きしたい。

(事務局)

徐々に利用は増えているが、まだまだ目標値には達していないので、これから周知などを進めないといけないと考えている。

実運行に乗車した際、お客様に話しを聞いたところ、想定していた狙いの一つでもあった、小学生の方が塾に通うために「のるーと」を使い始めたというケースがあった。今までは歩いて塾に通っており、路線バスを使う時もあったが、バス停のある国道に出るよりも「のるーと」の方が家から近いということであった。このように新たな利用者を獲得する取組にもなっており、また使い方等を人づてに紹介して徐々に広がっているようである。

説明会については、会場をコミュニティセンターに設定したこともあり多くの方にお越しいただけなかった。そのため、自治組織の皆さんにお願いをして、健康サロン等の小さな単位の集会に3名から5名程度集まり「のるーと三次」の説明が必要な際は、要請に応じて対応することとしている。この1月も何件かお電話をいただき、説明のためサロンに行っている。その中での意見としては、「中央病院の方へは行かないのか」という声をいただくことがあるが、中心市街地区域を運行エリアにしているということで、ご理解いただくようお願いしている。

(加藤委員)

3月末に「くるるん」は終了するので、のるーと三次の周知や利用促進を引き続き期待したい。

6. 閉 会

以 上